

ギンナン産地期待の星

執筆 尾張農林水産事務所農業改良普及課

氏名・産地名	村上 直樹さん
経営類型・作目	ギンナン、露地野菜
市町村	一宮市、稲沢市



村上 直樹さん

1. 経営・産地概要

- (1) 経営規模 ギンナン 80 a、スイートコーン 20 a、
ブロッコリー 20 a
- (2) 労働力 本人、パート 5 名（繁忙期のみ）
- (3) 販売 直売：市場出荷 = 1 : 9（直売は露地野菜が中心）

2. 取組

(1) 就農までの経歴

村上さんは、大学の経済学部を卒業後に3年間ほどサラリーマン（営業職）を経験しました。その時に「食べチョク*」に興味を持ち、生産から勉強したいと思い、新規就農を目指して「はつらつ農業塾**」（以下農業塾）に入門しました。2年間の研修後に露地ナスを中心とした露地野菜経営を開始しました。

(2) 不運が続いた就農当初

就農2年目に、台風の襲来により経営の主軸であるナスの防風施設や作業場兼倉庫に大きな被害を受けました。また、他に栽培していたニンニクは、加工のコスト高や売り先問題が発生したために中止することになり、更にナスのアレルギーを発症してしまったため露地ナス栽培を断念することになりました。

(3) ギンナン栽培への参入が転機

就農3年目に後継者のいないギンナン農家から経営継承の話があり、ギンナン栽培に参入することにしました。最初は、複合品目のひとつとしか考えていなかった



祖父江ぎんなん 500 g 箱

そうですが、高齢のためギンナン栽培をやめようと考えている農家から園の貸し出し依頼が増え、気づいたらギンナンが農業経営の主軸となっていたそうです。

村上さんは「ギンナン栽培は性に合っている」と語っており、更なる規模の拡大を目指しています。

(4) 複合品目への挑戦

ギンナンの農閑期（2～7月）を利用して、露地畑で栽培できる作物を検討しています。2023年からはスイートコーンとブロッコリーの栽培を開始し、昨年からは農業塾の同窓生とともに「木の芽」栽培に使用されるサンショウ苗生産も取り組み始めました。

(5) 感謝と恩返し

村上さんは、就農開始から今年で10年目を迎えることができ、就農の際お世話になった関係機関を始め、指導していただいた近隣の農業者や農業塾の同窓生に感謝したいと語っています。

これからも、お世話になった関係者の皆さんへの感謝を忘れずに、日本一のトップブランドである「祖父江ぎんなん」産地の維持・発展を目指し

つつ、新規就農者の育成に対して積極的に協力したいと話されています。



部会せん定講習会への参加

*生産者から消費者へ直接食材を届けるオンライン直売

**後継者不足による農地の遊休化に歯止めをかけようと、一宮市・稲沢市・J A愛知西が共同で設置した研修機関